
Trueflow 出力の手引き

第 14 版 Ver5.01 / Ver6.01 / Ver7.10以降 対応

更新情報 抜粋版

この出力の手引きは、Trueflow SE Ver5.01 TF175、Ver6.01 TF135、Ver7.10 TF110 以降に対応しています。

PDF 運用移行ガイド	Trueflow 推奨運用環境 1
	PDF/X 運用の推奨 2
	Adobe PDF Print Engine..... 3
	DTP アプリケーションとデータ作成 4
	従来 PS/PDF 処理と最新 PDF 処理との違い..... 7
PDF ワークフロー技術情報	透明効果 10
	オーバープリント 19
	オーバープリントモード..... 30
	特色指示 34
	塗り足し 39
	In-RIP セパレーション運用 42
	カラーマネジメントと RGB ワークフロー 45
PDF/X 運用	InDesign CS2 ~ CS5 での PDF/X 作成手順 52
	Illustrator CS2 ~ CS5 での PDF/X 作成手順 57
	InDesign CS での PDF/X-1a 作成手順 60
	Illustrator CS での PDF1.3 作成手順 62
	QuarkXPress 8.0 での PDF/X-1a 作成手順 64
	Acrobat Distiller での PDF/X-1a 作成手順 68
	PDF の検証と確認 69
PostScript 運用	InDesign CS2 ~ CS5 での PS 作成手順 71
	Illustrator CS ~ CS5 での EPS 作成手順 76
	InDesign CS での PS 作成手順 78
	QuarkXPress 8.0 での PS 作成手順 82
	QuarkXPress 6.5 での PS 作成手順 86
留意事項	PDF/X-4 運用 90
	PDF/X-1a 運用 92
	InDesign CS ~ CS5 93
	Illustrator CS ~ CS5 97
	Photoshop CS ~ CS5 99
	QuarkXPress 6.5 ~ 8 99
初期設定	Adobe CS2 ~ CS5、Acrobat 7 ~ 9 の PDF 設定 102
	Adobe CS2 ~ CS5 の共通各種プリセット 104
	InDesign CS のプリセット 109
	QuarkXPress 8.0 の出力スタイル 111
	QuarkXPress 6.5 の印刷書式 115
	Mac OS X の初期設定 117
	Windows XP の初期設定 119
付録	付録 -1 出力の手引き Web <目次> 122
	付録 -2 詳細目次 126

PDF 運用移行ガイド

*1) DTP 制作データの出力という観点において、出力透過性の高さ、サポート情報も多さ、その運用の将来性などの要素のバランスを推奨の基準としています。この運用しか使えないという意味ではありません。

Trueflow 推奨運用環境

Trueflow では、多くの入力対応ファイル形式、複数の演算処理系、多数のサポート DTP アプリケーションがありますが、ここでは現時点で最も推奨^{*1)}される DTP 運用環境について説明します。

PDF/X 運用



Trueflow では、従来の PostScript よりも、ISO の規格に準拠した PDF/X の活用を推奨します。 → 「PDF/X 運用の推奨」(P2)

PDF/X とは印刷を効率よく行うために生まれた印刷用の PDF です。ISO 15930 の規格として一定の基準が設けられているため、安全に出力することができます。例えば、印刷に関係のない PDF の記述や、エンベッドされていないフォントなどが禁止されています。通常の PDF では入稿しても印刷に適さない情報が入っていると出力できないこともあり、ネイティブから修正する手間が発生してしまいます。PDF/X では一定基準を満たした上で PDF を作成して入稿できるので、そのような手間を省き、合理的なワークフローを実現することができます。

Adobe PDF Print Engine



Trueflow では、「従来 PS/PDF 処理」よりも、Adobe PDF Print Engine を使用する「最新 PDF 処理」を推奨します。 → 「Adobe PDF Print Engine」(P3)

Adobe PDF Print Engine は、Adobe 社の新しい RIP 技術であり、従来の CPSI 系の RIP が PostScript を処理するのに対して、Adobe PDF Print Engine は PDF をダイレクトに処理することができます。Adobe PDF Print Engine による PDF のダイレクト処理では、透明効果の分割処理や RGB 画像の CMYK 変換などのデバイスに依存した処理を事前に行う必要はなく、そのまま RIP 処理することができます。Trueflow では独自の技術で Adobe PDF Print Engine の透過性を高めています。

最適な DTP アプリケーション



Trueflow では、最もその特徴を活かせる^{*2)} DTP アプリケーションとして、Adobe Creative Suite 3 以降、あるいは QuarkXPress 8 以降を推奨します。

→ 「DTP アプリケーションとデータ作成」(P4)

Adobe Creative Suite 2 以前では、画像にストリークが発生する^{*3)} という重大な問題がありましたが、その問題も修正し、また PDF/X-4 へのダイレクト出力に対応したアプリケーションとして Adobe Creative Suite 3 以降を推奨します。

QuarkXPress 8 は、Quark として、初めて PDF/X のダイレクト出力に対応したアプリケーションとして推奨します。

*2) 最もその特徴を活かせる、という意味であり、それ以外はサポートしていない、という意味ではありません。

*3) 画像を埋め込むという回避策はありますが、運用に制限が残ります。詳細は「[Illustrator CS3 以降による RGB 運用](#)」(P50)で説明しています。

PDF/X 運用の推奨

PDF/X-1a と PDF/X-4

PDF/X-1a と PDF/X-4 について、本書では、特に区別が必要となるポイントについて、以下のように表示しています。

どちらの表示もない場合は、一般的な情報としてお読みください。

X-1a PDF/X-1a の運用に必要な情報

X-4 PDF/X-4 の運用に必要な情報

PDF/X-4 の運用

X-4

PDF/X とは ISO 15930 の規格で、いくつかのバリエーションがあります。RGB 画像や透明効果の使用を禁止した PDF/X-1a、RGB 画像を許可した PDF/X-3、さらに透明効果を許可した PDF/X-4、その上にグラフィックの外部参照も許可した PDF/X-5 などがあります。また、2010 年より ISO 16612-2 の規格と発行されるバリアブル印刷向けの PDF「PDF/VT」も、PDF/X-4 や PDF/X-5 を基本技術として規格化されており、将来性という観点からも PDF/X 運用が推奨されます。

Trueflow SE では、透明効果を使用したデータや RGB 画像を含むデータは PDF/X-4 を、それ以外のデータには PDF/X-1a の運用を推奨します。

PDF/X-4 はデバイス依存性のない (Device Independent) PDF の運用を行うために不可欠な規格です。あらかじめ透明の分割処理や CMYK 変換が必要な PDF/X-1a とは異なり、そのメリットを最大限に活かすことができます。

PDF/X-4 のポイントとなるメリット 2 点を説明します。

1. 透明効果が使用された RGB ワークフローにおいて、透明効果を保持したまま (Live Transparency) の PDF を運用できます。^{*1)}

具体的には「DTP アプリケーション別 Trueflow 推奨運用」(P3) の表にあるように、InDesign CS2 ~ CS5、Illustrator CS3 ~ CS5 において、高品質な RGB-CMYK 変換を活用した運用が可能です。

詳細は「カラーマネジメントと RGB ワークフロー」(P45) を参照してください。

2. 文字の品質向上については、PDF/X-4 を Adobe PDF Print Engine 用いた処理を行う事で、元データのイメージを損なうことなく再現することができるというメリットがあります。

PDF/X-4 は、従来の PDF/X-3 に透明効果とレイヤーを含むことを許可しており、PDF のベースバージョンを透明がサポートされていない PDF1.3 からサポートしている PDF1.6^{*2)} に引き上げますが、透明効果とレイヤーを許可すること以外の制限については従来の PDF/X-3 とほぼ同等の内容となっています。

PDF/X-4 で運用することにより、透明効果を含む RGB ワークフローや文字の品質を向上させることができますが、それは PDF/X-1a での運用とは異なり、透明処理の方法を RIP 側に任せることになるため、PDF/X-1a の運用よりも RIP 側の処理の特性を熟知しておく必要があります。

*1) PDF/X-3 形式はなぜサポートしていないのでしょうか。



*2) 本来、PDF/X-4 のバージョンは、PDF1.6 以下ですが、CS3/CS4 では PDF1.4 での作成しかサポートされておらず、レイヤーを含めた PDF/X-4 を作成する事ができません。

PDF/X-1a の運用

X-1a

PDF/X-1a で運用するためには、RGB 画像を CMYK 画像に変換したり、全てのフォントをエンベッドする必要がありますが、最も設定が難しいのが透明オブジェクトの分割です。アプリケーションで「透明」と指定されたオブジェクトは、「透明のように見えるが透明ではないオブジェクト」として分割する必要があります。

透明の分割についての詳細は「透明効果」(P10) を参照してください。

Adobe PDF Print Engine

Trueflow における Adobe PDF Print Engine

Trueflow SE Ver5.00 以降から PDF の処理エンジンとして、Adobe PDF Print Engine を搭載しており、POD (Print On-Demand) 運用などの印刷形態にも対応し、デバイスごとに最適化した PDF を作成することなく、一つの PDF であらゆるデバイスに応じた柔軟な処理を行うことができます。

Trueflow SE では、PDF や PostScript の処理を従来の Trueflow 処理によって演算する方法（従来 PS/PDF 処理）と、新たに導入された Adobe PDF Print Engine を使用する方法（最新 PDF 処理）の二通りの処理から選択することができます。^{*1)}

下記「Trueflow 推奨運用」(P3)にある様に、Trueflow SE の Adobe PDF Print Engine を利用することで、運用はシンプルになり、品質面においても多くのメリットを得ることができます。

^{*1)}Trueflow SE はデュアルコア構成になっており、従来との演算互換性が必要な場合は、従来の Trueflow の処理エンジンを使用することもできます。

Trueflow 推奨運用

X-1a X-4

各々の DTP アプリケーションの Trueflow での推奨運用は以下の通りです。

- ・ DTP アプリケーション別 Trueflow 推奨運用
 - ◎：ダイレクトに PDF/X-4 出力 (P52)
 - ：RGB ワークフロー用 PDF を作成 (P52) → Acrobat 8 で PDF/X-4 に Fixup (P69)
 - ：ダイレクトに PDF/X-1a 出力 (P52) (P60) (P64)
 - ：PostScript 出力 → Distiller7 以降で PDF/X-1a に変換 (P68)
 - ：EPS 出力のみ
 - ×：サポートなし

			Trueflow SE 以降 ^{*2)}	Trueflow 3 Ver4.01 まで
Adobe Creative Suite 3	InDesign CS3 ~ CS5	RGB 運用	◎	◎
		CMYK 運用	◎	●
Adobe Creative Suite 5	Illustrator CS3 ~ CS5	RGB 運用	◎	◎
		CMYK 運用	◎	●
Adobe Creative Suite 2	InDesign CS2	RGB 運用	○	○
		CMYK 運用	○	●
	Illustrator CS2	RGB 運用	× ^{*3)}	× ^{*3)}
		CMYK 運用	●	●
Adobe Creative Suite	InDesign CS	RGB 運用	×	×
		CMYK 運用	●	●
	Illustrator CS	RGB 運用	×	×
		CMYK 運用	□	□
QuarkXPress	QuarkXPress 6.5	RGB 運用	×	×
		CMYK 運用	■	■
	QuarkXPress 7 ^{*4)}	RGB 運用	×	×
		CMYK 運用	●	●
	QuarkXPress 8	RGB 運用	×	×
		CMYK 運用	●	●

^{*2)} Trueflow SE で Adobe PDF Print Engine を使用した運用の場合

^{*3)} 画像が分割されるため (P98) 不可

^{*4)} QuarkXPress 7 は欧米版のみリリース

DTP アプリケーションとデータ作成

サポート DTP アプリケーション

*1) それ以外のアプリケーションについては Trueflow SE に添付されている「Trueflow 使用上の留意点」を参照して下さい。

Trueflow 出力の手引きでは、「Trueflow 推奨運用」(P3) に記載のある DTP アプリケーションをサポートしています*1) が、Adobe PDF Print Engine と PDF/X-4 のメリットを最大限に活かすことのできる DTP アプリケーションとして、Adobe Creative Suite 3 以降、あるいは QuarkXPress 8 以降を推奨します。

単にこれらの DTP アプリケーション使用するだけでなく、最適な設定（「PDF 書き出しプリセット」(P4) 参照）と、それに応じたデータ制作（「PDF のダイレクト出力とネイティブ貼り込みの推奨」(P6) 参照）を行う事も重要です。

・ Trueflow 出力の手引きのサポート

	DTP アプリケーション	主な運用
Trueflow 出力の手引き サポート DTP アプリケーション	Adobe Creative Suite 3	ダイレクト PDF/X-4 出力
	推奨 Adobe Creative Suite 5	
	QuarkXPress 7 / 8	ダイレクト PDF/X-1a 出力
	Adobe Creative Suite 2 Adobe Creative Suite	ダイレクト PDF/X-1a 出力 (留意事項あり) (P98)
	QuarkXPress 6.5	PostScript 出力→ Distiller で PDF/X-1a 変換

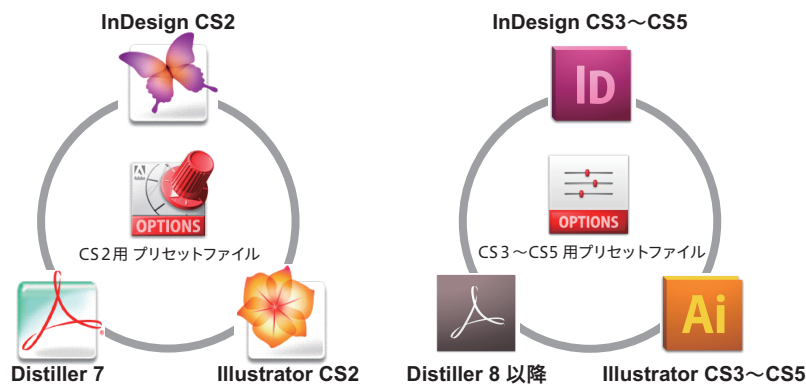
PDF 書き出しプリセット

X-1a X-4



Trueflow では、PDF/X の書き出しにおいて、必要な設定を間違いなく簡単に行うために、プリセットファイルを用意しています。

PDF 書き出しプリセットは CS2 又は CS3 ~ CS5 の各アプリケーション間で共有されます。



Creative Suite 2 のアプリケーション間 (InDesign CS2, Illustrator CS2, Acrobat 7) でプリセットファイルを共有します。

Creative Suite 3 ~ 5 のアプリケーション間 (InDesign CS3 ~ CS5, Illustrator CS3 ~ CS5, Acrobat 8/9) でプリセットファイルを共有します。

(Photoshop などでも使用しますが、ここでは説明しません)

QuarkXPress 8 にも、専用の出力スタイルファイルを用意しています。

Trueflow のサポートとして、以下のプリセットファイルを提供しています。

・プリセットファイル対応表

出力形式	PDF/X-1a	PDF/X-4
CS	Trueflow PDF-X-1a 1.0.pdfs	—
CS2	TrueflowPDFX1a1.3J.joboptions	Trueflow RGBwf 1.3J.joboptions
CS3 ~ CS5	TrueflowPDFX1a1.3J.joboptions	Trueflow PDFX4 1.3J.joboptions Trueflow RGBwf 1.3J.joboptions ^{*1)}
Distiller 7 以降	TrueflowPDFX1a1.3J.joboptions	—
QuarkXPress 8	TrueflowPDFX1a Style 3.1J.xml	—

*1) 「バージョンing運用」(P91) の場合のみ使用

このプリセットファイルは、Adobe が提供する標準の PDF/X のプリセットファイルとは詳細な設定で異なる部分がありますが、「各々の PDF/X に準拠した PDF を作成する」ということについては変わりありません。

CS2 と CS3/4 ではプリセットファイルの保存場所が異なります。

詳細は「Adobe CS2 ~ CS5、Acrobat 7 ~ 9 の PDF 設定」(P102) を参照してください。

QuarkXPress 8 については、「QuarkXPress 8.0 の出力スタイル」(P111) を参照して下さい。

Adobe 標準設定との相違点

Adobe の標準設定との相違点をいくつか挙げます。

- ・ Distiller 7 ~ 9 では、RGB 画像から CMYK 画像への自動変換は行わず、エラー終了する設定にしています。
- ・ 画像品質保証の観点から、画像圧縮として ZIP 圧縮を使用しています。
- ・ InDesign CS2 ~ CS5、Illustrator CS2 ~ CS5 において、なるべくブリード設定が有効になる設定にしています。
- ・ Trueflow で処理を行う場合、より一層出力品質と透過性が向上するように設定を最適化しています。

プリセットの設定変更

PDF 書き出しプリセットファイルはロックされているため、Distiller で設定を変更して、そのまま OK をクリックすると、「Adobe PDF 設定ファイルの書き込み中にエラーが発生しました。」とメッセージが表示されます。設定を変更した場合は「別名で保存」をクリックし、名前を変更して保存してください。

Adobe Creative Suite 向けの PDF 書き出しプリセットファイルは、各アプリケーションで設定を変更し、新たに保存することが可能です。

しかし、アプリケーション上で設定し、保存したプリセットを、設定したアプリケーション以外のバージョン (CS3 ~ CS5、Distiller8 以降) で使用すると、予期せぬ結果になることがあります。必ず保存したバージョン専用のプリセットファイルとしてご使用ください。初期状態の設定ファイルのみ共通で使用できます。

全てのアプリケーションで同じ設定変更が必要な場合 (例: 画像を JPEG 形式で圧縮するなど) も、各々のアプリケーション毎に別のプリセットファイルを作成して設定してください。

PDF のダイレクト出力とネイティブ貼り込みの推奨

Distiller では作成できない PDF/X-4

「DTP アプリケーション別 Trueflow 推奨運用」(P3) の表にある通り、Adobe Creative Suite シリーズ、及び QuarkXPress 8 (欧米では QuarkXPress 7) 以降のアプリケーションでは、全てのケースにおいて PostScript ではなく PDF のダイレクト出力が推奨運用となります。特にダイレクト出力が必要不可欠なのは、透明やレイヤー情報を含むことが可能な PDF/X-4 です。

Distiller で処理するには、一旦 PostScript に変換する必要がありますが、PostScript は、透明やレイヤーを記述できないため、分割統合されてしまいます。透明やレイヤーなどの情報を保持するためには、DTP アプリケーションからダイレクトに出力することが必須となります。

Illustrator CS2 ～ CS5 ネイティブ運用

Illustrator ネイティブ形式での保存設定は出力の手引き Web で説明しています。



RGB 運用を行う場合は、JPEG、TIFF または Photoshop ネイティブ形式 (.psd) で取り込みます。(P50)

Illustrator のデータを InDesign に取り込む場合、従来は EPS 形式での取り込みを推奨していましたが、「PDF/X-4 の運用」(P2) の説明の通り透明効果を保持したまま (Live Transparency) の PDF を作成するには、InDesign に配置される Illustrator データも透明が分割統合されてしまう EPS 形式ではなく、Illustrator ネイティブ形式で配置する必要があります。

Trueflow SE では Adobe PDF Print Engine を使用して、Illustrator ネイティブ形式 (.ai) で InDesign に取り込むことを推奨します。

・ Illustrator データ対応表

- ◎：透明を含めた連携サポート
- ：透明は分割される連携サポート
- △：制限付き (非推奨運用)
- ×：サポートしない

Illustrator		InDesign				QuarkXPress		
		2.0 以前	CS	CS2	CS3 { CS5	6.5	7*1)	8
10 以前	EPS	△ *2)	△ *2)	△ *2)	△ *2)	○	○	○
	ネイティブ	×	×	×	×	×	×	×
CS	EPS	×	○	×	×	○	○	○
	ネイティブ	×	○ *3)	×	×	×	×	×
CS2	EPS	×	×	○	×	○	○	○
	ネイティブ	×	×	◎ *4)	×	×	×	○
CS3 ～ CS5	EPS	×	×	×	○	○	○	○
	ネイティブ	×	×	×	◎ *5)	×	×	○

*1) QuarkXPress 7 は欧米版のみリリース

*2) 特色が使用されているとエラーになり、CMYK のみしか使用しない場合も含めて推奨という意味ではありません

*3) ネイティブ取り込みは可能だが、InDesign CS での PDF/X-4 運用はサポート外

*4) Trueflow SE で Adobe PDF Print Engine を使用する場合に限り推奨 (CMYK のみ、RGB 画像混在は不可)

*5) Illustrator と InDesign の CS のバージョンも合わせる必要あり。Trueflow SE で Adobe PDF Print Engine を使用する場合に限り推奨 (RGB 混在も可)

従来 PS/PDF 処理と最新 PDF 処理との違い

Adobe PDF Print Engine と従来演算

より詳細な解説を出力の手引き Web に記載しています。

- (1) 概要 [Web](#)
- (2) 技術詳細 [Web](#)
- (3) DTP アプリケーションの挙動 [Web](#)
- (4) 覚えておくべき事 [Web](#)

*1) 厳密なデジタル検版では、数ドット程度の品質に影響のない差違が検出される場合があります。

Trueflow SE では、従来の Trueflow 処理によって演算する方法（従来 PS/PDF 処理）と、Adobe PDF Print Engine を使用する方法（最新 PDF 処理）の二通りの処理から選択することができます。

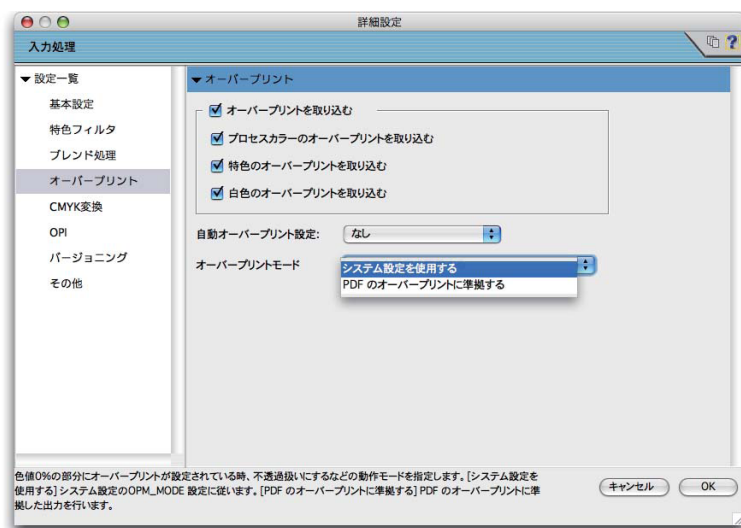
Trueflow SE Ver.7.10 では、最新 PDF 処理でも PostScript を処理できるようになり、最新 PDF 処理が従来 PS/PDF 処理と同じ様に使うことができます。

この 2 つの処理系において大きな違いが確認されることはほとんどありません^{*1)} が、特異なオーバープリントの処理において、まれに差違が確認される場合があります。しかし、以下のポイントを理解した上で、チェックすれば、この差違が表れることは、ほとんどありません。

- ・ 対象となるデザイン（例：グラデーションをオーバープリントなど）は通常は設定されないケースが多い
- ・ 最新 PDF 処理の方が PDF の規格としては正しく、Acrobat の表示とも一致するので、Acrobat での事前チェックが可能。

Trueflow の「オーバープリントモード」での設定

従来 PS/PDF 処理には「オーバープリントモード」という設定がありますが、この設定は、PDF の規格としての OPM（「オーバープリントモード」（P30）参照）だけの意味ではなく、「従来 PS/PDF 処理の結果を最新 PDF 処理に合わせる」という意味を持っています。



最新 PDF 処理では、この「オーバープリントモード」の設定はありません。常に「PDF のオーバープリントに準拠する」ものとして動作します。

演算処理系統	「オーバープリントモード」設定	処理内容	Acrobat 表示
従来 PS/PDF 処理	システム設定を使用する	従来の PostScript の処理	一致しない ^{*1)}
	PDF のオーバープリントに準拠する	PDF の規格通りの処理	一致する
最新 PDF 処理	(設定なし)		

^{*1)} 全く一致しないのではなく、下記「2つの設定による差違」(P8)の部分での差違のみ発生

Trueflow の「システム設定を使用する」処理

^{*2)} 「システム設定」とは Trueflow の内部設定で、詳細な OPM の処理について定義しているものです。このシステム設定が標準状態の場合について説明しています。

オーバープリントモードの設定が「システム設定を使用する」(デフォルト)^{*2)}の状態では、下記「2つの設定による差違」(P8)で示されているオブジェクトについて、PDF の本来の規格とは異なる動作を行います。

この設定の特徴は、OPM が不適切に設定された場合でも、見た目と一致し、ユーザーの期待に近い処理を行います。

また、OutlinePDF の処理において、緻密な互換性を保つためのいくつかの特別な処理が入っており、OutlinePDF による運用を行う場合は、この設定を使用します。

Trueflow の「PDF のオーバープリントに準拠する」処理

^{*3)} 入力処理において、自動オーバープリント設定が使用されたり、オーバープリントを取り込まない設定を行った場合には、その時点で PDF のオーバープリント設定を変更することになるので、OPM についても仕様通りの出力にはなりません。

従来 PS/PDF 処理で「PDF のオーバープリントに準拠する」を指定した場合、PDF の規格通りの処理を行います。

最新 PDF 処理の場合はこの設定がなく、常に PDF の規格通りの演算を行い、OPM の処理も「オーバープリントモード」(P30)の説明通りの正式な仕様に基づいて演算されます。^{*3)}

この設定の特徴は、規格通りに処理されるため、一般的な DTP アプリケーションから出力された PDF を見た通りに出力する場合や、OPM が混在したり、あえて /OPM 0 が記述される様な特殊な PDF の出力を試みる場合に、この設定を使用します。つまり、OutlinePDF 以外の場合は、この設定の使用を推奨します。

2つの設定による差違

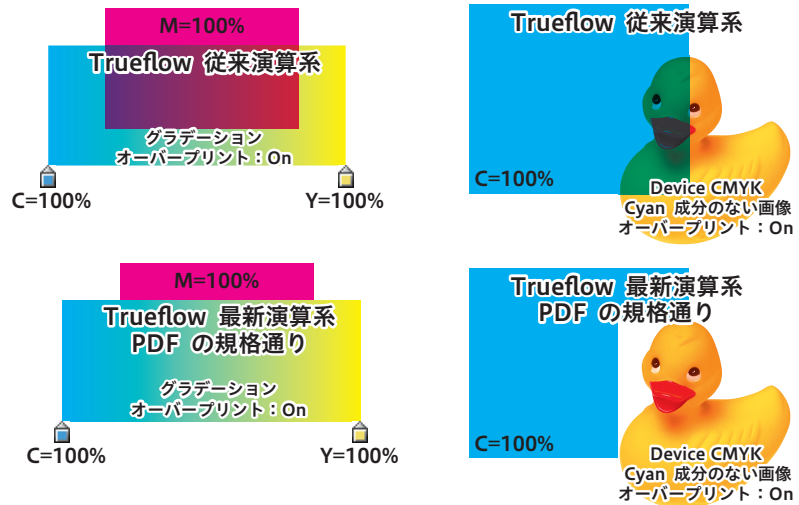
この2つの設定における出力の差違について、下表にまとめます。

全てのオブジェクトにおいて「PDF のオーバープリントに準拠する」設定の場合の出力が、PDF の規格通りの正しい出力です。

オーバープリントモード設定	システム設定を使用する	PDF のオーバープリントに準拠する
DeviceCMYK のグラデーションにオーバープリント	有効	無効
DeviceCMYK の画像にオーバープリント	有効	無効
DeviceCMYK のパターンにオーバープリント	有効	無効
DeviceGray に対するオーバープリント	有効	無効
PDF に記述された OPM の取り扱い	無視 : /OPM 1 で処理	データ通り処理
DeviceN や Separation による白ノセ	白が消える	白として出力
DeviceRGB/ 疑似色化の特色へのオーバープリント ^{*4)}	CMYK 変換で有効	無効

^{*4)} 例えば、RGB=0,0,0% のオーバープリントは入力チケットの設定により K=100% の墨ノセオブジェクトとして処理します。

例として DeviceCMYK のグラデーションと画像の差違を以下に図示します。



処理系に依存しないオーバープリント記述

具体的な DTP アプリケーションごとの挙動の説明を出力の手引き Web に記載しています。



*1) OutlinePDF も同様にデバイス依存性の低いオーバープリントの再現が得られる様に工夫されており、この 2 つの設定によるオーバープリント処理の差は発生しません。

逆に、OutlinePS/EPS の場合、従来 PS/PDF 処理の「システム設定を使用する」での演算が前提で（つまり依存性が高い）あるため、入稿データの Separation Black や DeviceN（Black のみ）カラーを DeviceGray に変換し、OutlinePS/EPS に記述します。

そのデータを PDF の規格通りに処理すると入稿データで指定されていた Black は DeviceGray なのでノセが無視されます。

それが墨ノセの場合は、Trueflow 側の自動オーバープリントで回避できます。それ以外の Black へのノセを有効にするには事前に OutlinePS/EPS を OutlinePDF に変換することで DeviceGray は Separation や DeviceN に書き換えられるので回避できます。

以上の例の通り、「[2 つの設定による差違](#)」（P8）で示された様なオブジェクトは、RIP の処理系によって解釈が異なる可能性の高い、デバイス依存性の高い記述であり、最近の DTP アプリケーションでは、この様な記述を避ける様に実装されています。

例えば、PDF の規格により、DeviceCMYK のグラデーション、パターン、画像へのオーバープリント指定は無効になっていますが、DTP アプリケーション側で版の有無を明示的に指定できる DeviceN に書き換えることによって、可能な限りオーバープリントが再現できるように工夫されています。^{*1)}

この例の場合、DeviceN で記述することによって、RIP 側のオーバープリント処理の仕様に依存せず、また OPM の設定にも関わらず、同じオーバープリントが再現できます。

現在の主流である In-RIP セパレーション運用では、RIP 側での分版を DTP アプリケーション側から明確に指定する必要があり、その明確な指定の為にこの様な DeviceN への書き換えなどの工夫がされています。

これが In-RIP セパレーション前提の PDF ワークフローで、DeviceN の理解が重要である理由のひとつです。

Illustrator 10 や InDesign 2.0.2 の頃は、出力の手引き Web ([Adobe PDF Print Engine](#)でのオーバープリント (3) - DTP アプリケーションの挙動) 上で示した例（表示上の矛盾があるなどの）の様
にオーバープリントの解釈が明確になっていく過渡期であり、この頃に利用されていた Trueflow の従来演算処理も含む当時の RIP でも、その状況を考慮したオーバープリント処理が実装されたために、現在の RIP とは異なる結果になる場合もあります。

実際の制作業務ではこれらのオブジェクトへのオーバープリントは透明に置き換える、DeviceGray は使用しないなどの工夫を行う事で、より出力環境への依存の少ない PDF が作成できます。

PDF/X 運用

本章では、Trueflow で運用するための PDF/X ファイルの作成手順やその上での留意事項や制限について記載しています。

InDesign CS2 ～ CS5 での PDF/X 作成手順

InDesign CS4, CS3, CS2 では、以下の手順でアプリケーションから直接 PDF/X のプリフライトにパスする PDF を作成する事ができます。

PDF/X-1a を作成する場合は、透明オブジェクトは設定されたパラメータに基づいて分割されます。

RGB 画像が含まれている場合は、「[カラーマネジメントと RGB ワークフロー](#)」(P45) を参照し、必要な品質が得られる対策を行ってください。対策を行わずにそのまま RGB 画像を出力しないでください。

PDF のレイヤーを用いて Adobe PDF Print Engine で演算するバージョン運用を行う場合は、「[バージョン運用](#)」(P91) を参照してください。

Trueflow では、PDF/X 出力用として、以下のプリセットを用意しています。

- ・ Trueflow PDFX1a 1.3J.joboptions (PDF/X-1a CS2 ～ CS5 用)
- ・ Trueflow PDFX4 1.3J.joboptions (PDF/X-4 CS3 ～ CS5 用)
- ・ Trueflow RGBwf 1.3J.joboptions (RGB ワークフロー CS2 用およびバージョン運用 CS2 ～ CS5 用)

ここでは、PDF/X-4 の作成手順を記載していますが、PDF/X-1a の場合は設定の差異のみを横の注釈欄に記載しています。

InDesign でプリフライト

ここでは、InDesignCS2/CS3 でのプリフライトについて解説しています。CS4/CS5 についてはライブプリフライト機能を用いて同様の確認を行ってください。

プリフライトでチェックできない RGB

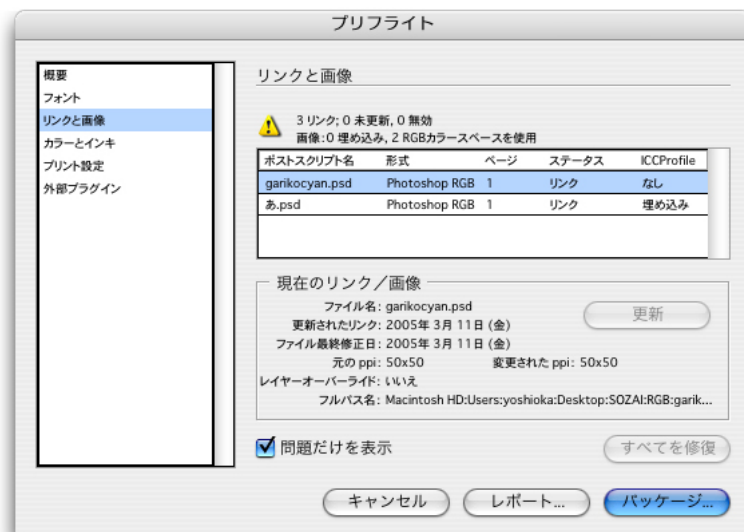
InDesign では、配置された EPS、Adobe Illustrator または Macromedia FreeHand ファイルに埋め込まれている RGB 画像は検出できないため、元のアプリケーションで配置画像のカラーデータを確認してください。

RGB ワークフローの場合は、必要箇所に適切な RGB 画像が配置されているかを確認します。

1. データを PDF で保存する前に、InDesign でプリフライトを行い RGB が含まれていないかを確認します。
ファイル／プリフライト ... を選択します。



2. プリフライト結果がダイアログで表示されます。
「概要」もしくは「リンクと画像」で RGB 画像の有無を確認できます。
「問題だけを表示」を ON にすると RGB 画像のみのリストを表示できます。



PDF/X-1a 出力で RGB を含んでいた場合は、事前に CMYK に変換してください。RGB 部分が予期しないカラーで出力されてしまう場合があります。

3. PDF/X-4 出力の場合は「Trueflow での RGB ワークフローのデータ処理手順」(P48)に基づいて必要な前準備を行って下さい。

PDF 書き出し

(Trueflow PDF/X-4 用ジョブオプションで CS3 ~ CS5 の場合)

プリセットのインストール方法は「Adobe PDF プリセット」(P102)を参照してください

概要の警告 (CS3 以降)

Trueflow PDF/X-1a 用プリセットを使用すると、CS3 以降では「概要」に警告が表示されます。警告内容にカラーが CMYK に変換されることが示されている場合、RGB の使用箇所をあらかじめ CMYK に修正するか、もしくは RGB 画像をリンクで配置し PDF/X-4 出力してください。

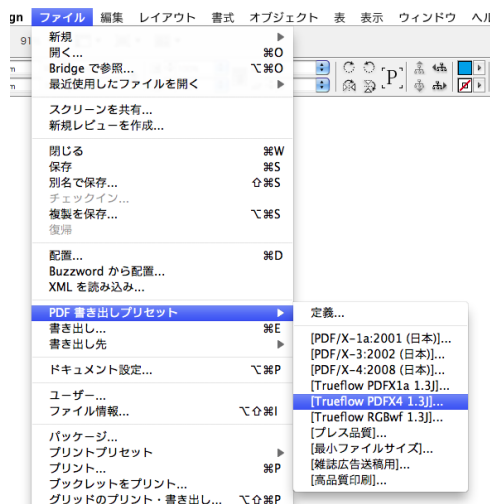
PDF/X-1a 出力

Trueflow 用プリセット「Trueflow PDFX1a 1.3J...」を選択します。

PDF/X-4 出力 (CS2 の場合)

Trueflow 用プリセット「Trueflow RGBw1 1.3J...」を選択します。

1. ファイル / PDF 書き出しプリセット / Trueflow PDFX4 1.3J... を選択します。



2. 書き出しダイアログで、保存ファイル名と保存場所を指定し「保存」ボタンをクリックすると、PDF 書き出しダイアログが表示されます。それぞれのパネルにて、以降の記載内容にしたがって設定してください。

1. 一般

標準:	PDF/X-4:2008
互換性:	Acrobat 5 (PDF 1.4)
ページ	必要に応じて設定してください。

PDF/X-1a 出力

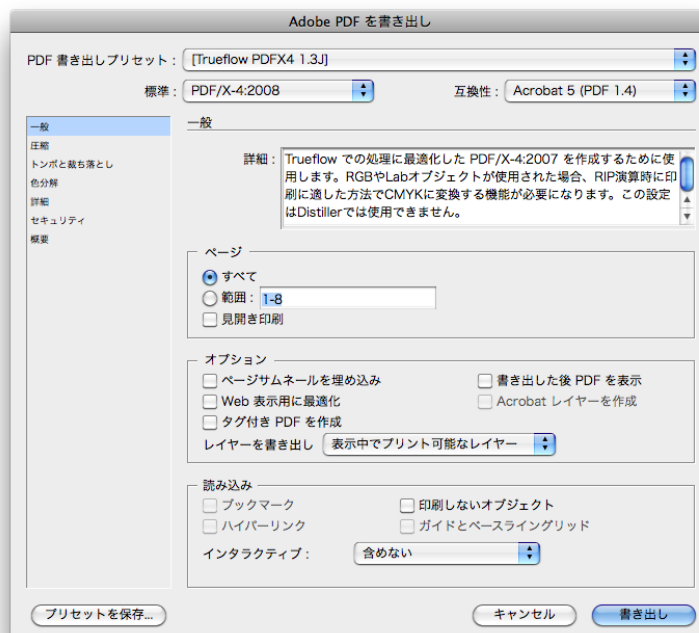
[標準]: PDF/X-1a:2001

[互換性]: Acrobat 4 (PDF1.3)

PDF/X-4 出力 (CS2 の場合)

[標準]: なし

[互換性]: Acrobat 7 (PDF1.6)



II. 圧縮

圧縮設定について
 プリセットは、品質重視のために可逆圧縮の設定になっています。JPEG 圧縮を行う場合は、品質上の問題がないことを十分に確認してから設定を変更してください。

圧縮	必要に応じて設定してください。
----	-----------------

III. トンボと裁ち落とし

トンボとページ情報	必要に応じて設定してください。
裁ち落としと印刷可能領域	必要に応じて設定してください。
裁ち落とし	Trueflow と同じ値

IV. 色分解

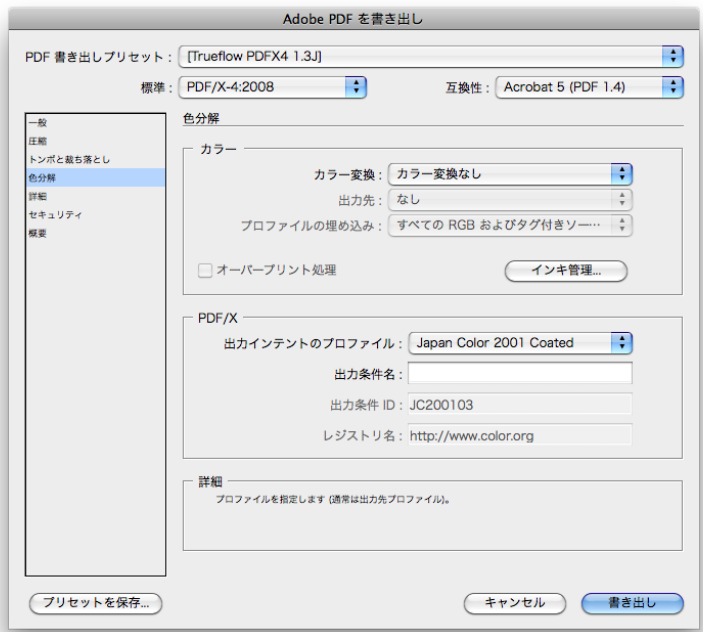
推奨はこの設定ですが、必要に応じて変更してください。

色分解について
 この設定を変更すると出力される画像品質に影響があります。設定を変更する場合は、出力される画像品質に問題がないかどうか、事前に確認をとっておく必要があります。

カラー	
カラー変換	カラー変換なし
出力先	Japan Color 2001 Coated (任意)
PDF/X	
出カインテント	Japan Color 2001 Coated (任意)

[カラー変換]:
 「なし」に設定すると、PDF/X-1a になりません。

PDF/X-1a 出力
 [カラー変換]: 出力先の設定に変換 (カラー値を保持)
PDF/X-4 出力 (CS2 の場合)
 [カラー変換]: カラー変換なし
 [プロファイル埋め込みポリシー]: すべての RGB およびタグ付きソース CMYK プロファイルを含める
 [出カインテント]: なし



V. 詳細

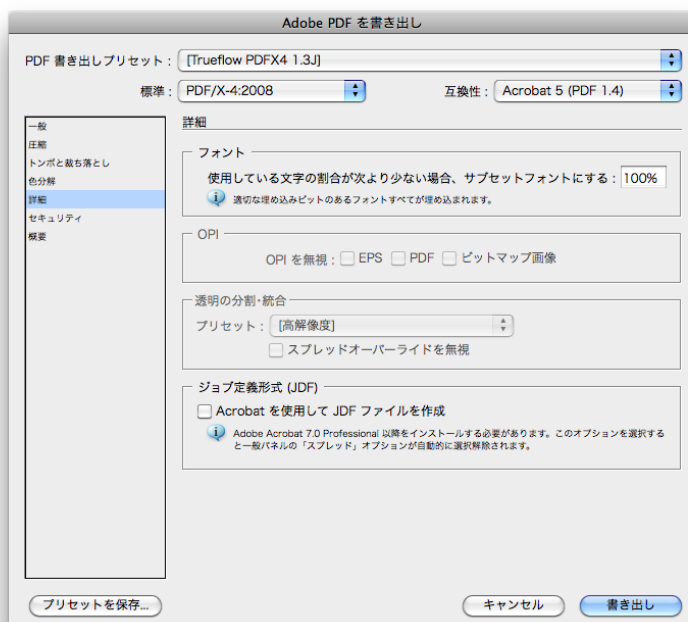
[透明の分割・統合]:

通常は、「高解像度」で出力してください。

透明処理を含み、非常に複雑なデータが RIP 処理でエラーになる場合は、「[透明分割・統合オプション]の詳細」(P12)を参照の上、「編集」-「透明の分割・統合設定」で設定を変更してください。

透明の分割・統合

プリセット: [高解像度]

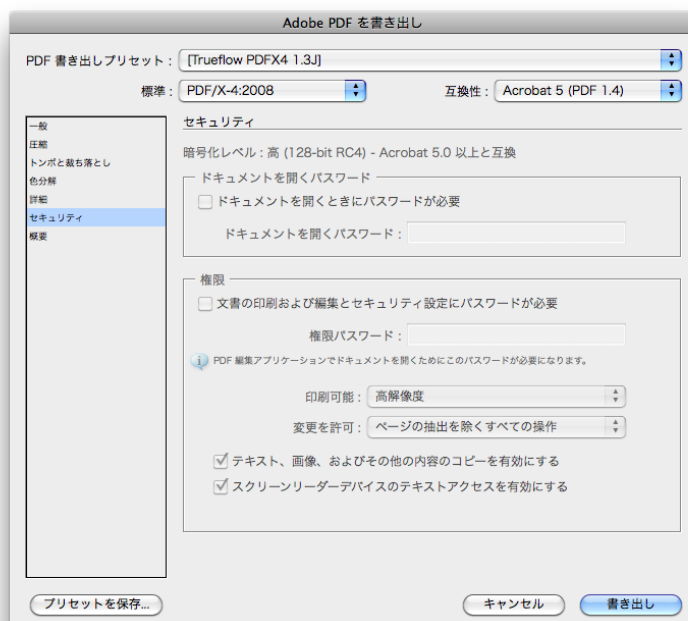


VI. セキュリティ

(設定しないでください。)

セキュリティ設定

セキュリティを設定すると、Trueflow でエラー終了し、正常に出力が出来ないことがあるため、セキュリティは設定しないでください。



3. 「書き出し」ボタンでファイルを保存してください。

Illustrator CS2 ~ CS5 での PDF/X 作成手順

Illustrator CS2 ~ CS5 では、以下の手順でアプリケーションから直接 PDF/X のプリフライトを通る PDF を作成する事ができます。

また、Illustrator CS3 では従来の留意事項が修正され、RGB を含んだワークフローが可能となりました。

RGB 画像が含まれている場合は、「[カラーマネジメントと RGB ワークフロー](#)」(P45) を参照し、必要な品質が得られる対策を行ってください。対策を行わずに RGB 画像をそのまま出力しないでください。

Trueflow では、PDF/X 出力用として、以下のプリセットを用意しています。

- ・ Trueflow PDFX1a 1.3].joboptions (PDF/X-1a CS2 ~ CS5 用)
- ・ Trueflow PDFX4 1.3].joboptions (PDF/X-4 CS3 ~ CS5 用)

ここでは、CS3 ~ CS5 における PDF/X-4 の作成手順を記載していますが、CS2 の場合は、PDF/X-1a を前提に「PDF/X-1a 出力」として、差異のみを横の注釈欄に記載しています。

RGB 画像の扱い
(CS3 ~ CS5 の場合)
PDF/X-4 出力の場合、RGB 画像はリンクで配置してください。リンクで配置すると、CMYK に変換されず RGB を保持します。
(CS2、CS の場合)
PDF/X-4 出力に対応していません。RGB は含めず CMYK 画像を埋め込みで配置してください。

PDF/X-1a を作成する場合は、透明オブジェクトは設定されたパラメータに基づいて分割されます。

PDF 書き出し

(Trueflow PDF/X-4 用ジョブオプションで CS3 ~ CS5 の場合)

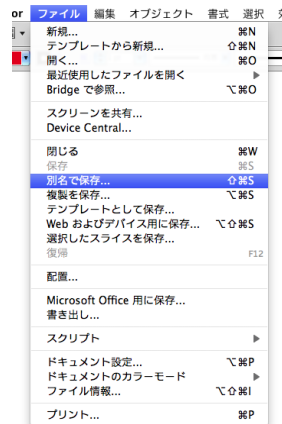
プリセットのインストール方法は「[Adobe CS2 ~ CS5、Acrobat 7 ~ 9 の PDF 設定](#)」(P102) を参照してください

画像は埋め込みで (CS2)
画像はリンクではなく、埋め込みで処理してください。(P98)
CS3 以降ではこの限りではありません。

概要の警告 (CS3 以降)
Trueflow PDF/X-1a 用プリセットを使用すると、CS3 以降では「概要」に警告が表示されます。警告内容にカラーが CMYK に変換されることが示されている場合、RGB の使用箇所をあらかじめ CMYK に修正するか、もしくは RGB 画像をリンクで配置し PDF/X-4 出力してください。

PDF/X-1a 出力
[Adobe PDF プリセット]:
「Trueflow PDFX1a 1.3].joboptions」を選択します。

1. ファイル/別名で保存 ... を選択します。



2. 別名で保存ダイアログで、保存ファイル名と保存場所、フォーマットに「Adobe PDF (pdf)」を指定し「保存」ボタンをクリックすると、Adobe PDF を保存ダイアログが表示されます。

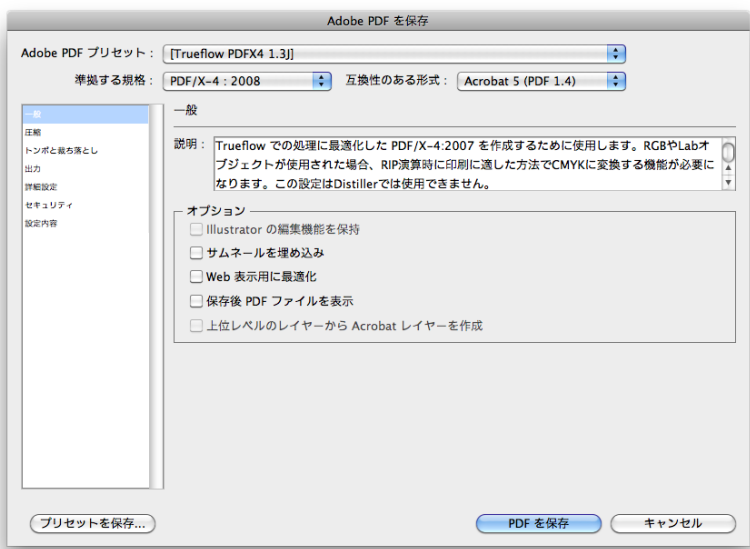
3. Adobe PDF プリセットで「Trueflow PDFX4 1.3...」を選択し、それぞれのパネルで、以降の記載内容に従って設定してください。

I. 一般

*1) CS3 の場合は [準拠する規格] として PDF/X-4:2008 ではなく PDF/X-4:2007 と表示されます。

PDF/X-1a 出力
 [準拠する規格]:
 PDF/X-1a:2001
 [互換性のある形式]:
 Acrobat 4 (PDF 1.3)

準拠する規格:	PDF/X-4:2008*1)
互換性のある形式:	Acrobat 5 (PDF1.4)



II. 圧縮

圧縮設定について
 プリセットは、品質重視のために可逆圧縮の設定になっています。JPEG 圧縮を行う場合は、品質上の問題がないことを十分に確認してから設定を変更してください。

圧縮	必要に応じて設定してください。
----	-----------------

III. トンゴと裁ち落とし

トンゴとページ情報	必要に応じて設定してください。
裁ち落とし	Trueflow と同じ値

IV. 出力

[PDF/X] :
推奨は「Japan Color 2001 Coated」
ですが、必要に応じて変更してく
ださい。

PDF/X-1a 出力

[カラー変換] : 出力先の設定に変
換 (カラー値を保持)
[出力先] : Japan Color 2001
Coated (任意)

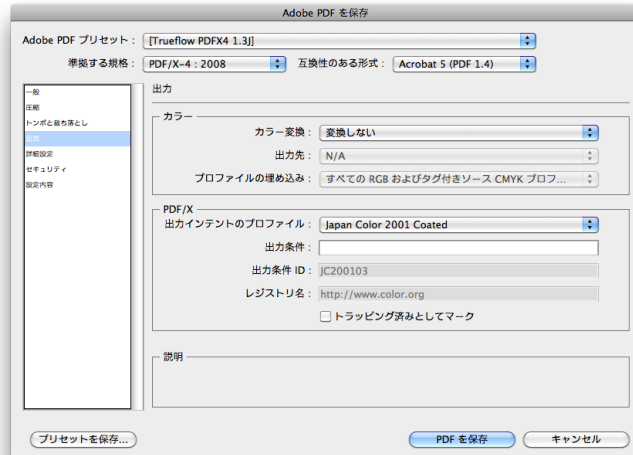
カラー

カラー変換 変換しない

出力先 N/A

PDF/X

出カインテントのプロファイル Japan Color 2001 Coated (任意)



V. 詳細設定

オーバープリントおよび透明の分割・統合オプション (PDF 1.3 のみ)

オーバープリント : 保持 (グレースアウト)

プリセット : 高解像度 (グレースアウト)

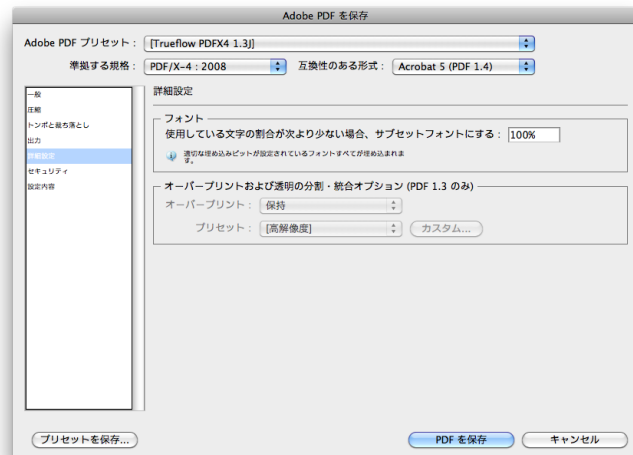
PDF/X-4 出力 (CS3～CS5 の場合)

[オーバープリントおよび透明の
分割・統合オプション (PDF 1.3
のみ)] : 分割・統合の必要がな
いためグレースアウト

PDF/X-1a 出力

[透明の分割・統合] :
通常は、「高解像度」で出力して
ください。

透明処理を含み、非常に複雑な
データが RIP 処理でエラーにな
る場合は、「透明分割・統合オ
プション」の詳細 (P12) を参照
の上、「編集」 - 「透明の分割・
統合設定」で設定を変更してく
ださい。



VI. セキュリティ

(設定しないでください。)

セキュリティを設定すると、Trueflow でエラー終了し、正常に出力が出来ない場合があるため、セキュリティは設定しないでください。

4. 「書き出し」ボタンでファイルを保存してください。

留意事項

PDF/X-4 運用

透明ブレンド領域

出力の手引き Web では同じ原因の他の事例も説明しています。



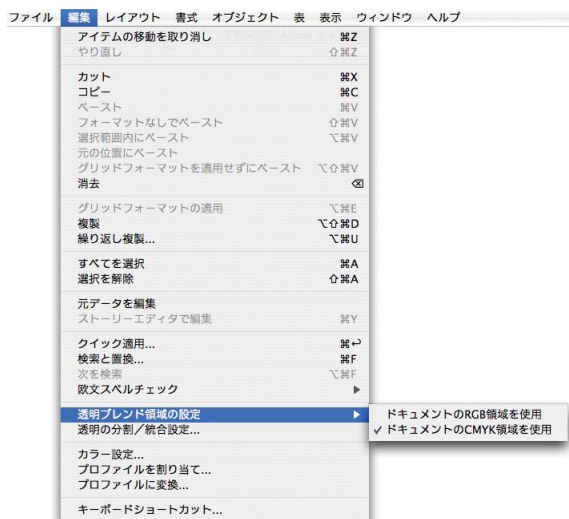
Trueflow での対応状況と Adobe からの情報公開についても説明しています。



PDF/X-4 の運用では、透明効果そのまま PDF に反映され、RIP 側で透明の合成処理が行われるため、データ作成時のデバイスカラースペースに注意が必要です。

透明の合成処理には RGB ベースと CMYK ベースの演算方法があり、印刷で使う透明処理は CMYK ベースで演算を行います。RGB ベースで演算を行うと出力が不正な結果となります。

演算方法の指定は DTP アプリケーションで行います。InDesign CS2 ~ CS5 の「編集」 「透明ブレンド領域の設定」 「ドキュメントの CMYK 領域を使用」 を選択します。この手順で作成された PDF は Trueflow 内部の透明の合成処理において、CMYK ベースで演算され、印刷に適した出力を得ることができます。



透明の合成演算について

PDF/X-4 の運用では、透明効果を DTP アプリケーション側で分割統合せず、RIP 内部で処理することになります。Trueflow 内部では品質優先で処理を行うため、透明を多用した非常に複雑なデータの場合、処理時間が長くなったり、分割統合処理後のデータが大きすぎて処理できない場合があります。特に、以下の様な場合に極端に負荷が高くなります。

- ・グラデーションに自然画像またはドロップシャドウ
- ・パスが複雑な図形に対するドロップシャドウなどの透明の関係する効果
- ・立体的な文字などで使用される多数の図形を用いたブレンドに自然画像が透明

InDesign に効果付きデータを配置

出力の手引き Web で発生条件と回避方法を説明しています。



発生原理と解説について説明しています。

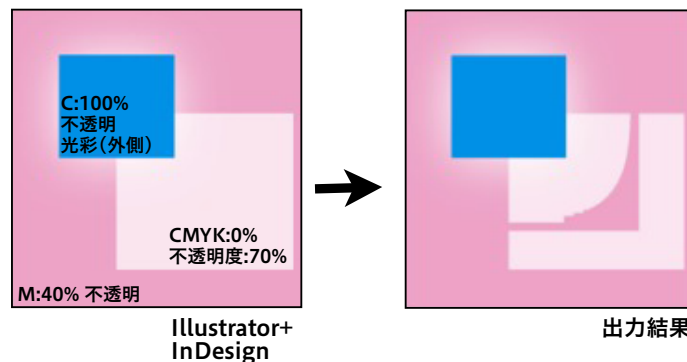


この問題は以下のバージョンの Trueflow で正しく出力できるようになりました。

- ・ Ver5.01 TF175
- ・ Ver6.01 TF135
- ・ Ver7.10 TF110
- ・ Ver7.20 以降

光彩(外側)などの特定の効果が付いた Illustrator または Photoshop で作成したデータを、ネイティブか、アプリケーションから書き出した PDF を InDesign に配置し、PDF/X-4 形式で書き出すと、Trueflow の最新 PDF 処理において出力が不正になることがあります。

この問題は、Acrobat では確認できず、Trueflow からの出力で発生します。



バージョンニング運用

この PDF のレイヤーを使用したバージョンニング運用は Trueflow SE Ver6.00 以降の Adobe PDF Print Engine を用いた運用によりサポートされます。詳細は Trueflow SE に添付される「バージョンニング運用マニュアル」を参照してください。

Adobe Creative Suite3 ~ 5 用に提供されている PDF/X-4 作成用 PDF プリセットファイル「Trueflow PDFX4 1.3.joboptions」を使用してもレイヤー付き PDF を作成することはできません。バージョンニング運用を行う場合は Adobe Creative Suite3 以降でも「Trueflow RGBwf 1.3.joboptions」を使用してください。



バージョンニング運用とは、PDF で表現されるレイヤーを利用して、単一のドキュメントから複数の出力を得る方法で、いわゆる「店名差し替え」運用や「多言語対応」などが可能になります。この運用でも PDF/X-4 形式を使用します。

この運用は InDesign CS2 ~ CS5、Illustrator CS2 ~ CS5 でサポートされます。作成手順は以下のとおりです。

1. 各々のアプリケーションのレイヤーを用いたデータ作成を行ってください。(各アプリケーションのマニュアル参照)
2. 「Illustrator CS2 ~ CS5 での PDF/X 作成手順」(P57) の手順で、PDF 書き出しプリセットとして「Trueflow RGBwf 1.3.joboptions」を選択して、PDF1.6 形式のレイヤー付き PDF を作成します。
3. 作成された PDF を「PDF の検証と確認」(P69) を参照し、Acrobat 8/9 で PDF/X-4 に Fixup することで、レイヤー付きの PDF/X-4 を作成することができます。

フォントプリフライトの問題

PDF1.4 以上の機能を使用した PDF やセパレーション形式の PDF を入力した場合、以下どちらかの条件に合致すると、フォントのプリフライト結果が NG になることがあります。実際の出力では文字化けは発生しません。

- ・ 埋め込んである Type3 フォント
- ・ 実際の描画には使用していないが PDF 上に情報があるフォント

透明効果を含む PDF が真っ白で出力される場合

透明効果を含む PDF を入力し、以下のすべての条件を満たす場合、ページ内の描画位置がずれたり、真っ白で出力される場合があります。

- ・ その他のタブの [製版余白] 設定を OFF にしている

- ・ PDF ファイルの MediaBox 等の原点座標に負の値が設定されている

「塗り足し」(P39) で説明しているように、塗り足しを正確にデザインし、ページ原点を意識したデータ作成を行うことで、この問題は回避できます。

PDF/X-1a 運用

縦書き文字に透明効果で文字が欠ける問題

出力の手引き Web で発生原理を説明しています。(Trueflow では発生しない問題です)



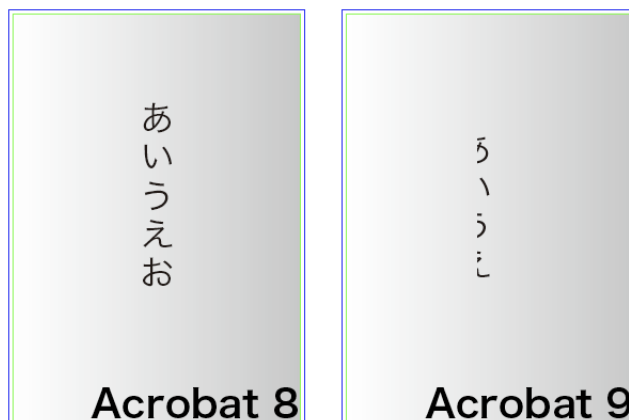
InDesign CS4 や Illustrator CS4 の配置で問題が回避できなくなる原理を説明しています。



Adobe からの情報公開について紹介しています。



InDesign CS2 ~ CS4 と Illustrator CS2 ~ CS4 において、縦書きの文字に透明効果とオーバープリントを適用して、PDF/X-1 形式で出力すると、Acrobat9 で表示すると文字が欠けて見えるという問題があります。Acrobat8 以前では問題は発生しません。



この問題は Trueflow では発生しませんが、該当するデータを InDesign CS4 や Illustrator CS4 に配置することで、不具合が回避できないデータになってしまうので注意が必要です。

Acrobat Distiller 6 のフォントエンベッド

Acrobat Distiller 6 に日本語のフォントのエンベッドに関する重要な不具合^{*1)}がある事が判明しています。現在確認できているのは、次のような条件でまれに再現する問題です。

*1) この不具合は、Acrobat 7 以降では、修正されています。

- ・ Illustrator のネイティブファイルか、PDF を InDesign に配置
- ・ そのドキュメントから出力した PS を Distiller 6 を用いて PDF に変換

このような条件が揃う場合に、まれにフォントのエンベッドが正常に行えないこと

があるようで、Acrobat 6 で開くと、以下のようなエラーメッセージが表示され、プロパティのフォントの部分で確認すると「埋め込みサブセット」と表示されないフォントがある場合や、エラーメッセージもなく、文字が数文字欠けたりする不具合が発生します。



その結果、出力してみると文字欠けが発生してしまいます。

回避策としては、以下のいずれかの方法が有効である事が確認されています。

- ・ Illustrator ドキュメントを貼る場合は EPS 形式で行う
- ・ InDesign CS から PDF/X-1a 形式にダイレクトに出力する

また、このような症状が発生した場合でも、Acrobat 6 による PDF/X-1a のプリフライトでは「問題なし」として合格してしまうため、上記のような条件を満たすことのできない、複雑なドキュメントで不安のある場合は、目視による入念なチェックが必要です。

InDesign 2.0.2 から作成した PS を使用する場合

InDesign 2.0.2 で作成した PS を Acrobat Distiller 7 で PDF/X-1a に変換すると、「BleedBox オフセットが無効です」という違反で、チェックに適合しない場合があります。これは、InDesign 2.0.2 の作成する PS の記述上、BleedBox よりも MediaBox の方がごくわずかに小さく（内包してしまう）記述されてしまう場合がある事が原因で、Acrobat Distiller 6 ではこれを適合としていましたが、Acrobat Distiller 7 では適合しないと判断するようです。

InDesign 2.0.2 のドキュメントから PDF/X-1a を作成する場合は、トンボを付けるなどの方法でページサイズ（MediaBox）を大きくして PS を作成してください。

InDesign CS ～ CS5

マルチスクリーン運用について

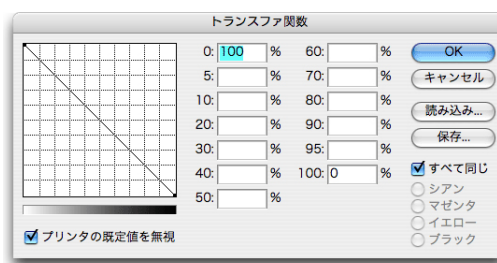
InDesign から出力される PostScript に配置した PhotoshopEPS に設定されたハーフトーンスクリーン情報が含まれない、という問題があるため、InDesign を用いたマルチスクリーン運用は行えません。

この場合でも、Trueflow 入力後の、AVANAS MultiStudio や TrapEditor を用いて、マルチスクリーン指定を行う事は可能です。

トランスファ関数の適応

Photoshop で指定したトランスファ関数を InDesign CS 以降で適応するためには、Photoshop のトランスファ関数の設定ウィンドウで、「プリンタの既定値を無視」にチェックを入れておく必要があります。同時に、EPS 保存時の EPS オプションの「トランスファ関数を含める」にもチェックが必要です。

(InDesign 2.0.2 以前のバージョンでは、トランスファ関数が適切に適応されない、という問題がありました)



DCS 形式の EPS 画像を用いた運用

従来の InDesign の運用では、DCS 形式の画像が用いられた場合、Trueflow 側で OPI 処理を行う必要がありましたが、InDesign CS では DCS 画像をコンポジット化して PostScript に埋め込むことができるため、Trueflow 側での OPI が不要になりました。この機能は、Photoshop で作成した画像のみが対象 (Hexware のプラグインも含む) なので、それ以外のアプリケーションで作成した DCS 形式の画像は、従来通り OPI 処理を行ってください。OPI 処理を行う場合は、「[OPI を無視]」(P81) の説明に従って設定を行ってください。

特色が使用された Illustrator EPS

Illustrator10 以前を使用した EPS に特色が含まれている場合、その EPS を InDesign で配置して PostScript 出力すると、記述的に矛盾のある PostScript が生成され、エラーが発生します。特色が含まれた EPS を使用する場合は、Illustrator CS 以降を使用してください。

RGB (0,0,0) の色指定について

X-1a

InDesign で、文字や罫線や塗りなどのオブジェクトの色指定で、RGB 全て 0% を指定した場合、出力では K 版 100% にはならず、CMYK の 4 色に変換されてしまいます。(InDesign の仕様)

InDesign では RGB の色指定を使用せず、CMYK で色指定を行ってください。
(※ RGB ワークフローの場合、この限りではありません)

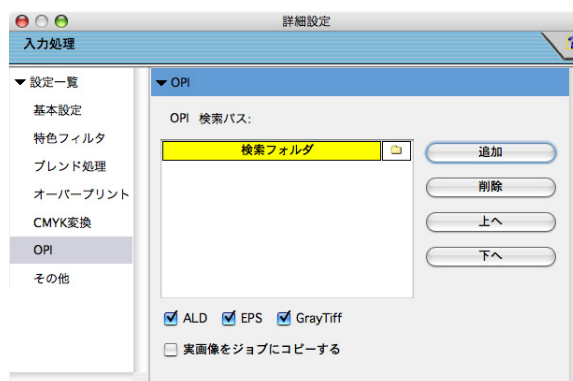
透明効果やぼかし効果

InDesign で、透明効果やぼかし効果をつけた Gray 画像を処理すると、解像度によっては画像内に白スジが発生する場合があります。

GrayTIFF の OPI 設定

InDesign で、色付けした GrayTIFF に対して、シェード（濃淡）で 100% 以外の値を指定したデータを処理する場合、Trueflow の入力処理チケットの以下の OPI 設定を ON にしてください。

- ALD
- EPS
- GrayTiff



InDesign で、特色に色付けした GrayTIFF を含むデータを、上記のような OPI 設定で処理する場合、OPI 実画像が存在しないと、粗画像部分の色が薄く出力されてしまいます。（プロセスカラーで色付けされている場合は、この問題は発生しません）

店名差し替え

Trueflow で出力画像上の一部分に別のデータを重ねて出力する機能（店名差し替え機能）を使用する場合、InDesign から「色分解（In-RIP）」のカラーで PostScript を出力すると、ベースページに白のオブジェクトが出力されるため、重ねた下地の画像を隠してしまいます。InDesign CS 以降のデータを店名差し替え機能を利用する場合は、PDF/X-1a 形式で出力してください。

InDesign への PDF の配置

*1) Trueflow ではサポートしていない QuarkXPress 6.x からダイレクトに出力した PDF を、InDesign に配置した場合は高い確率で発生します。



全ての InDesign において、部品として PDF を配置すると画像が抜けるなどの問題が発生する事が確認^{*1)}されていますので、PDF の配置はしないでください。ただし、PDF/X-4 の運用のために Illustrator CS2 ～ CS5 のネイティブファイル（内部的には PDF 形式）を InDesign CS2 ～ CS5 に配置する場合は、この問題は発生しません。詳細は「[Illustrator CS2 ～ CS5 ネイティブ運用](#)」（P6）を参照してください。

InDesign CS3 ～ CS5 の「効果」について

出力の手引き Web では、より詳細な説明をしています。



Adobe からの情報公開について紹介しています。



この問題は以下のバージョンの Trueflow で正しく出力できるようになりました。

- ・ Ver4.01 TF185
- ・ Ver5.01 TF175
- ・ Ver6.01 TF135
- ・ Ver7.10 TF110
- ・ Ver7.20 以降

InDesignCS3 以降でサポートされた「効果」の内、以下のものを使用し、対象となるオブジェクトが回転されていると出力が不正になる場合があります。InDesignCS4 や CS5 でも発生します。

- ・ ベベルとエンボス
- ・ シャドウ（内側）
- ・ 光彩（内側）
- ・ サテン



回避方法としては、同様のデザインを Illustrator で行い、InDesign で配置して出力するか、該当 InDesign ドキュメントから PDF/X-1a 出力をすることで、効果を画像化して出力してください。

InDesignCS2 ～ CS4 での合成フォントの問題

出力の手引き Web で発生原理を説明しています。



まとめ記事として InDesign と Trueflow の修正について説明しています。



Adobe からの情報公開について紹介しています。



合成フォントが使用された InDesignCS2 ～ CS4 のドキュメントからダイレクトに PDF/X-1a を出力し、Acrobat 7 と Acrobat 9(や Acrobat 8) で表示させると、表示上の差が発生する場合があります。



Trueflow でも従来の演算系で同様の問題が発生することがあります。

この問題は以下のバージョンの Trueflow で正しく出力できるようになりました。

- ・ Ver4.01 TF180
- ・ Ver5.01 TF168
- ・ Ver6.01 TF125
- ・ Ver7.00 TF017
- ・ Ver7.10 以降

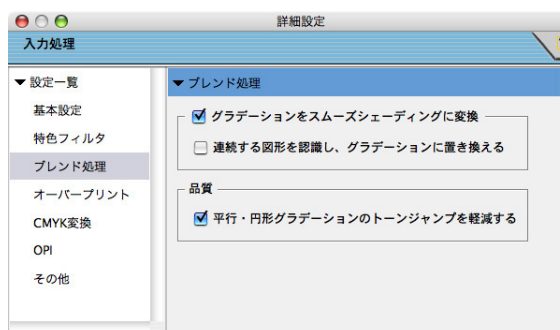
症状から見ると Acrobat 8 以降で問題が修正された様に見えますが、この問題の本来の原因は InDesign が出力する PDF の記述にあり、PDF の規格としては Acrobat 7 や Trueflow での出力結果の方が正しい（が InDesign での表示とは異なる）事が分かっていますが、印刷としては Acrobat 9 での表示、つまり InDesign で見た通りの出力が得られないと、問題になります。

Illustrator CS ～ CS5

Trueflow の「グラデーションの 差し替え」

グラデーションを含むデータを入力処理の「グラデーションをスムーズシェーディングに変換」を OFF で処理すると、グラデーションが欠けたり品質が低下する場合があります。通常、入力処理の「グラデーションをスムーズシェーディングに変換」は ON としてください。

しかし、例外として、グラデーション上に特殊効果が付けられた部品を配置したデータを処理した場合、部品周辺のグラデーションに濃度差が発生することがあるため、この場合は、入力処理の「グラデーションをスムーズシェーディングに変換」を OFF にし、グラデーションの差し替えを行わない事で、この現象を回避することが可能です。



画像化されるオブジェクト

Illustrator で、透明効果・ぼかし・ドロップシャドウなどの効果をつけた場合、対象としたオブジェクトが画像化されて保存されることがあります。

そのため、画像化された部分の出力結果にムラがでたり、段差が生じる場合があります。

特色の疑似色化

特色名が同じで、疑似色値が異なる特色が同一ページ / 同一折り面に面付けして使用された場合、入力処理テンプレートの「特色情報の取り込みをする」を ON にして特色を取り込むと、同一名の特色は全て同じ疑似色値を持つようになります。

データ作成時は一時的に特色として登録し、最終的にプロセス分解して出力を行う場合は、入力処理テンプレートの「特色情報の取り込みをする」を OFF とし、QuarkXPress 4.1 / 5.0 の場合は TP-X の特色調整機能にて、それぞれの部品で設定した疑似色値により、特色をプロセス化することが可能です。

PDF

- ・ Illustrator CS2 において、Illustrator から直接 PDF1.4 形式で出力したものは、正常に出力されない事があります。Illustrator CS2 の場合は、EPS 保存したものを使用するか、PDF/X-1a で保存したものを使用してください。
- ・ Illustrator で透明効果とグラデーションメッシュの機能を併用して PDF を作成すると、グラデーションメッシュの部品が消えてしまうことがあります。
- ・ Illustrator CS / CS2 から PDF を出力する場合、画像はリンクではなく埋め込んで処理してください。リンクで貼ると、画像にスジが入る場合があります。Illustrator CS3 で、この問題は修正されています。(P4) (P57)

Trueflow の OutlinePS/EPS

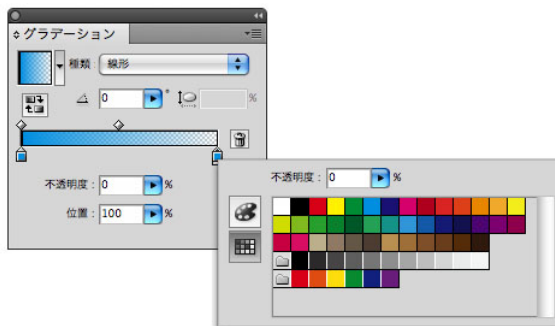
Illustrator で作成したデータを含むジョブから Trueflow の OutlinePS / EPS を作成する上で、いくつかの留意事項があります。
 詳細は、「Trueflow 使用上の留意点」を参照してください。

Illustrator CS4 以降での透明グラデーション

出力の手引き Web では、より詳細な説明をしています。



Illustrator CS4 で新たにサポートされた透明グラデーションが含まれたデータは、Adobe Creative Suite 2 や Acrobat 7 以前のアプリケーションでは正しく処理できないことが確認されています。Illustrator CS4 で作成した透明グラデーションを含むデータを InDesign に配置して出力する場合は必ず InDesign CS4 をお使い下さい。(参照：「Illustrator CS2 ～ CS5 ネイティブ運用」(P6))

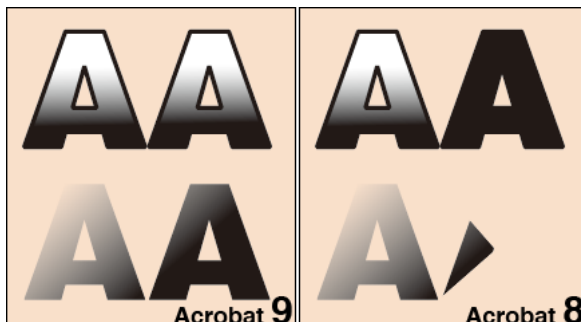


文字と透明度グラデーション

出力の手引き Web では、より詳細な説明をしています。



Illustrator CS4 以降を用いて、文字に透明度グラデーションを用いて PDF/X-4 形式で書き出した場合、Acrobat 8 以前では正しく表示されません。
 Trueflow 内部で PDF1.3 変換を行った場合に同じ問題が発生します。



Photoshop CS ～ CS5

Photoshop で DCS を作成する場合

以下の理由より、種々の DCS 画像を最も問題なく運用できるのは Photoshop CS 以降です。

Photoshop 7 または Photoshop CS 以降を用いて、DCS や DCS2 形式で保存する時に「プレビューなし」の形式で保存すると、Trueflow での OPI 処理が正常に動作しません。「カラープレビューを含む」形式で保存することで正常に動作します。Photoshop 7 で JPEG エンコードを行った DCS を作成すると、データが不正になり、Trueflow でエラーになります。この問題は Photoshop CS 以降では発生しません。Photoshop 6 以前で作成した DCS2 では CMYK 版が揃っていないと、データ不正でエラーになります。

ヒストリーログ

Photoshop CS からサポートされたヒストリーログ機能を用いて、ヒストリーログを含んだ EPS が保存された場合、編集履歴が大きくなると、PostScript での文字列の制限を超えたログが EPS 内に記録され、エラーが発生します。ヒストリーログ機能は使用しないでください。

QuarkXPress 6.5 ～ 8

アップグレードの推奨

QuarkXPress 6.5 では多くの不具合が修正されており、OpenType フォントのダイナミックダウンロードにも対応されています。QuarkXPress 6.1 で問題がある場合、まず QuarkXPress 6.5 へのアップグレードをお試しください。

ダイレクト PDF 出力について

QuarkXPress からダイレクトに出力される PDF については、サポートしていません。また、QuarkXPress 6.5 で環境設定内の PDF において「PostScript ファイルを一時作成」と設定して作成された PS ファイルもサポートしません。

*1) QuarkXPress 7 は欧米版のみリリースされています。

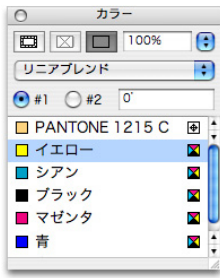
QuarkXPress 7^{*1)} 以降では PDF/X-1a ダイレクト出力をサポートします。

セパレーション PS について

Trueflow ではセパレーション PS での運用を推奨していません。

QuarkXPress 6.5 / 7 / 8 でのセパレーション PS 運用もサポート外となります。

QuarkXPress 6 のグラデーションについて



QuarkXPress 5 以前では、内部で設定できるグラデーションは、Trueflow 内部でのグラデーション差し替えの対象となり、なめらかなグラデーションが出力できていましたが、QuarkXPress 6 では、グラデーションの記述パターンが変更されているために、差し替えの対象とならず、PostScript の記述そのままの出力を行います。このため、QuarkXPress 6 でのグラデーションは、それ以前のバージョンの QuarkXPress で出力したものと比較して、品質が劣化する場合があります。

QuarkXPress 7 以降ではグラデーションは PDF、PostScript 出力ともにスムーズシェーディングで記述される様に改善されており、Trueflow 内部での差し替えの必要なしに、なめらかなグラデーション出力が得られます。

特色名の長さ制限

特色名が半角 32 文字以上で、印刷カラーが「DeviceN」の場合に Trueflow でエラーが発生することがあります。特色名は半角 31 文字以下にしてください。

ボックスのフレームに特色

QuarkXPress 6 では、ボックスのフレームの色として特色を指定しても、正常に出力できない場合があります。

テーブル作成機能

QuarkXPress 6 のテーブル作成機能において、条件によっては画面表示と出力結果が異なる事が確認されています。

テーブル機能を使用される場合は、出力結果に問題がないかどうか確認してから使用してください。

ページ情報の文字

QuarkXPress 6 では、仕上がりページ外に出力されるトンボの横の「ドキュメント名日時ページ」の文字がビットマップで出力されます。QuarkXPress 7 以降では問題ありません。

DCS のサポート

QuarkXPress 6 では、本来セパレーション運用が前提である DCS (DCS2 を含む) を用いたドキュメントを出力する場合は、その画像を Trueflow 側にコピーし、Trueflow 側で OPI 処理を行うことで、コンジット運用でも正常に出力することができます。QuarkXPress 6 で DCS (DCS2 を含む) を含むドキュメントを DeviceN 形式で PostScript 出力を行うと、「現在印刷しようとしているページには DCS 画像が含まれています。DeviceN を使って DCS 画像を印刷する場合、予測不能の事態が起こる可能性があります。続けてよろしいですか?」と表示されますが、ドキュメント上の全ての DCS 画像が Trueflow 側で OPI 処理できるようになっていれば、問題なく処理できます。

QuarkXPress 7 以降では DCS の Trueflow 側での OPI 処理はサポートしません。

印刷書式ファイルについて

QuarkXPress 6.5 からは、印刷書式ファイルでブリード値も設定できるようになっています。

しかし「Trueflow スタイル ver2.1J」にはブリード値を含んでいませんので、PS 出力時に手順通りレイアウトタブのオフセットと同じ値を設定するか、同じ値を設定した新たな印刷書式ファイルを作成し、それを使用してください。

QuarkXPress 7 以降ではブリード値も含めた出カスタイルになっています。

不要版自動判別機能の制限

入力データに CMYK 成分をもつ画像が含まれる場合、画像データのピクセル値に関わらずプロセスカラーが全て出力されます。

データにグラデーションがあると、判定が正しく行われず、不要版が出力される場合があります。(QuarkXPress の方形ブレンド、ダイヤモンドブレンド等)

透明効果

出力の手引き Web では、他の透明の留意事項を説明しています。



QuarkXPress 7 / 8 で透明が使用された場合、出力時に分割された箇所に関係なくオブジェクトのずれや、ストリークが確認される場合があります。

Illustrator ネイティブ貼り込み

出力の手引き Web では、より詳細な説明をしています。



8.1 アップデータでの改良点と留意事項も説明しています。



QuarkXPress 8 で Illustrator ネイティブ貼り込みの場合、Illustrator の「不透明マスク」機能を用いたデータが正常に出力できない場合があります。EPS 形式で貼り込んだ場合は問題ありません。

初期設定

本章では、DTP で作成したデータを Trueflow で運用していただく前に、あらかじめ必要な設定事項、また Trueflow で推奨する出力設定についての重要な情報を記載しています。

- ・ Trueflow 用 各プリセットファイル対応表

	PDF/X-1a 出力 .joboptions	PDF/X-4 出力 .joboptions	カラー設定 .csf	PS 出力 .prst
CS	Trueflow PDF-X-1a 1.0 (.pdfs)	—	—	Trueflow 1.1
CS2	TrueflowPDFX1a1.3J	Trueflow RGBwf 1.3J	Trueflow Color Std 1.0J Trueflow Color Pro 1.0J	Trueflow 1.1
CS3 ~ CS5	TrueflowPDFX1a1.3J	Trueflow PDFX4 1.3J Trueflow RGBwf 1.3J ^{*1)}	Trueflow Color Std 1.0J Trueflow Color Pro 1.0J	Trueflow 1.1
Distiller 7 ~ 9	TrueflowPDFX1a1.3J	—	—	—

^{*1)} 「バージョンing運用」(P91) の場合のみ使用

Adobe CS2 ~ CS5、Acrobat 7 ~ 9 の PDF 設定

Adobe PDF プリセット

CS2 からの出力
Adobe CS2 から出力する場合の
Trueflow 用 RGB ワークフロー
のプリセットとして、「Trueflow
RGBwf 1.3J.joboptions」
を配布しています。

Trueflow では、PDF/X 出力用の推奨設定をプリセットファイルとして提供しています。

- ・ Trueflow PDFX1a1.3J.joboptions (PDF/X-1a 用)
- ・ Trueflow PDFX41.3J.joboptions (PDF/X-4 用)

このプリセットファイルは Acrobat で Trueflow に最適化した PDF/X を作成するために使用します。プリセットに関する詳細は「PDF 書き出しプリセット」(P4) を参照してください。

1. 注意事項

- ・ PDF プリセットファイルの格納場所が変更となり、各ユーザがユーザのフォルダへ保存したプリセットファイルは全ユーザで共有できません。個別に設定が必要です。
- ・ 設定したプリセットファイルは Acrobat と Creative Suite の各アプリケーション間で共有できます。

II. Adobe PDF 設定

1. プリセットファイルを以下の指定のフォルダに格納してください。

[Adobe CS3 ~ CS5, Acrobat8/9 の場合]

(Mac)

/Users/[ユーザ名]/Library/Application Support/Adobe/Adobe PDF/Settings/

(Win)

¥ Documents and Settings ¥ [ユーザ名] ¥ Application Data ¥ Adobe ¥ Adobe PDF ¥ Settings ¥

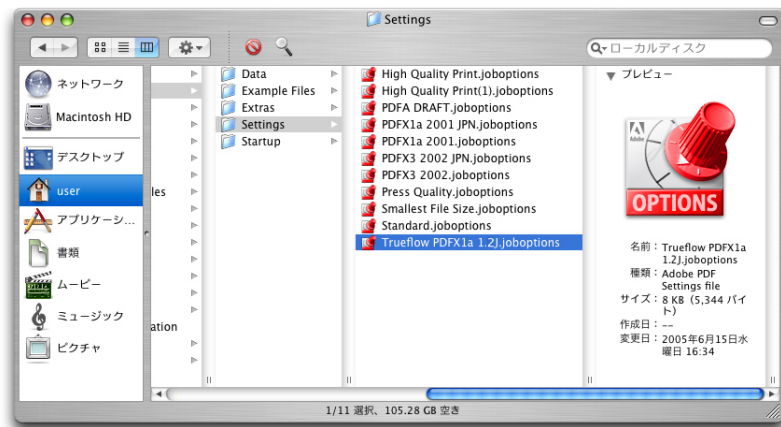
[Adobe CS2, Acrobat7 の場合]

(Mac)

/Library/Application Support/Adobe PDF/Settings/

(Win)

¥ Documents and Settings ¥ All Users ¥ Shared Documents ¥ Adobe PDF ¥ Settings ¥



2. このファイルを置くことにより、それぞれのアプリケーションでこのジョブが使用できる状態になります。

以上で、プリセットの設定は完了です。

Adobe CS2 ～ CS5 の共通各種プリセット

Adobe CS2 ～ CS 5 の共通プリセットとして、以下の 3 種類の初期設定ファイルを用意しています。

- ・ カラー設定ファイル (.csf)
- ・ PS 出力プリントプリセットファイル (.prst)
- ・ RGB ワークフロー用プリフライトプロファイル (.kfp)



カラー設定ファイル

「Trueflow Color Pro 1.0J」はドキュメントに設定されたカラープロファイルの不一致は必要に応じて表示されますが、「Trueflow Color Std 1.0J」はプロファイルに関する警告は表示されません。

Trueflow では、カラーの推奨設定として 2 つのカラー設定ファイル (.csf) を提供しています。

- ・ Trueflow Color Std 1.0J.csf
- ・ Trueflow Color Pro 1.0J.csf

全てのアプリケーションにおいて、共通で使用するカラー設定ファイルです。RGB 画像用の作業スペースとして、「sRGB IEC61966-2.1」を、CMYK 画像用の作業スペースとして「Japan Color 2001 Coated」を指定しています。CMYK 画像にリンクされたプロファイルは無視され、カラー値は保持される設定になっています。また、作業上注意の必要なカラープロファイルの不一致については、必要に応じて警告表示される設定になっています。

1. プリセットカラーの設定

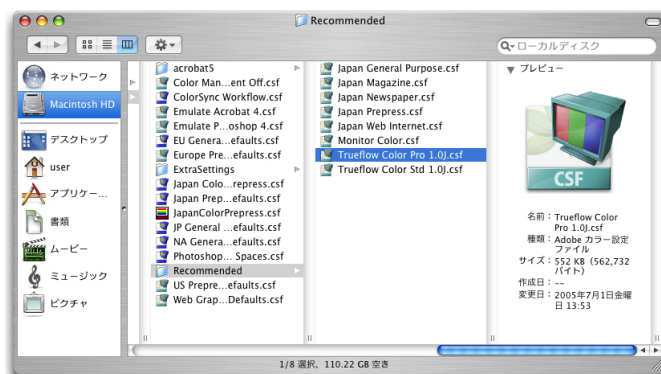
1. 2 つのプリセットカラーファイル (Trueflow Color Std 1.0J.csf、Trueflow Color Pro 1.0J.csf) を以下の指定のフォルダに格納してください。

(Mac)

/Library/Application Support/Adobe/Color/Settings/Recommended/

(Win)

¥ Program Files ¥ Common files ¥ Adobe ¥ Color ¥ Setting ¥ Recommended ¥



以上で、プリセットカラーの設定は完了です。

II. カラー設定の同期


Adobe CS2 ~ CS5 の複数のアプリケーションを使用する場合は、作業前に Bridge を使用してカラーの設定を行います。

カラー設定を行うと自動的に同期され、Adobe CS2 ~ CS5 のすべてのアプリケーション間で同じ色を再現できます。

カラー未同期^{*1)} のメッセージ

カラー設定が同期されていない場合は、CS2、CS3、CS4 の各アプリケーションで、カラー設定ダイアログボックスの上部に警告メッセージが表示されます。作業前にカラー設定を同期させることをお勧めします。

*1) CS3 まで「非同期」でしたが、CS4 で「未同期」に変わりました。

 未同期: Creative Suite アプリケーションはカラー設定が同期されていません。同期するには、Bridge で「Suite カラー設定」を選択してください。

*2) Bridge のメニューに「Creative Suite のカラー設定」が表示されない場合は、各アプリケーションで同様のカラー設定を行ってください。

1. Bridge を起動します。
2. メニューから、編集 / Creative Suite のカラー設定 ... を選択します。^{*2)}



3. Suite のカラー設定ダイアログが表示されます。

その一覧からカラー設定「Trueflow Color Pro」、もしくは「Trueflow Color Std」を選択し、「適用」ボタンをクリックすると、カラー設定の同期が完了します。



4. このカラー設定の同期は、Bridge をはじめ、各 CS2 ~ CS5 のアプリケーションから確認することができます。

[InDesign CS5 の場合]



PS 出力プリントプリセット

プリセット設定

一度、プリセットの設定作業を行えば、削除しない限り、再度同じプリセットの設定を行う必要はありません。

また、プリセットファイルの設定内容は InDesign に読み込まれるため、読み込みが完了したプリセットファイルは設定時と同じ場所に置いておく必要はありません。

Trueflow では、PostScript の推奨設定をプリントプリセットファイル (.prst) として提供しています。

- Trueflow 1.1.prst

このプリセットファイルは、InDesign CS2 ~ CS5 から PostScript を出力する場合に使用するプリセットファイルです。

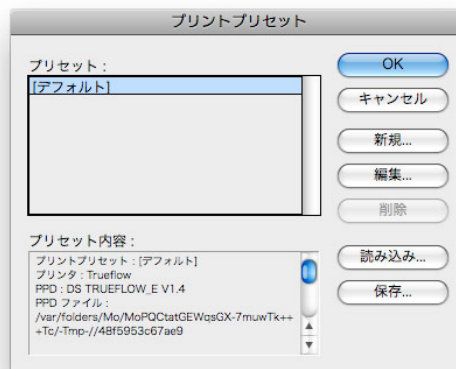
InDesign CS用(Trueflow 1.0.prst)の「PS出力プリントプリセット」(P110)とはカラーマネジメントの設定が異なります。

1. プリント プリセットの設定

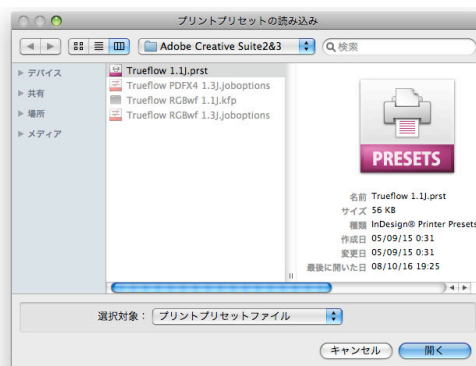
1. ファイル/プリントプリセット/定義... を選択します。



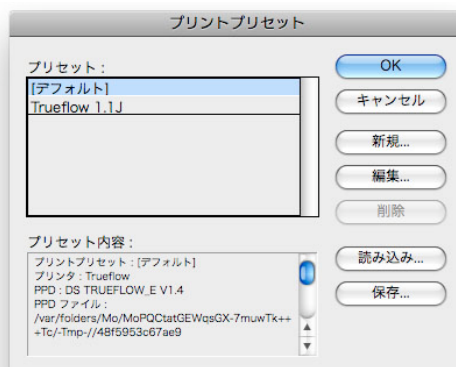
- 表示されたプリントプリセットダイアログで、「読み込み ...」 ボタンをクリックします。



- プリントプリセットの読み込みダイアログで、読み込み元のプリセットファイルを選択し、「開く」 ボタンをクリックします。



- ファイルが読み込まれ、プリセットとして追加されます。
プリントプリセットダイアログに、追加したプリセット名が表示されていることを確認し、「OK」 ボタンで終了します。



以上で、プリントプリセットの設定は完了です。

RGB ワークフロー用プリフライトプロファイル

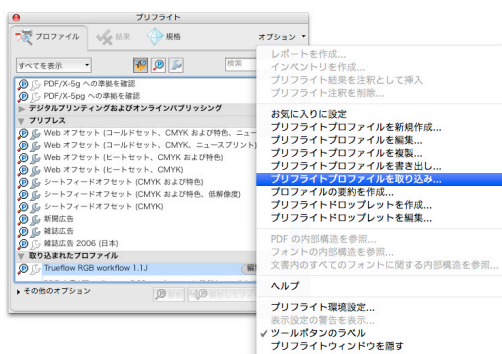
Trueflow 側で推奨する PDF であるかを Acrobat 7, 8, 9 で検証するには、専用の RGB ワークフローのプリフライトプロファイルを読み込ませる必要があります。Trueflow ではプロファイルを提供しています。このプロファイルを読み込ませて検証を行ってください。

- ・ Trueflow RGBwfl 1.1J.kfp

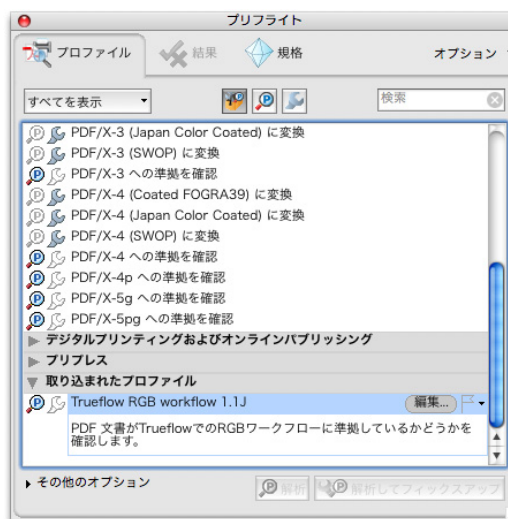
ここでは、プロファイルの読み込み手順を説明します。

1. プロファイルの読み込み

1. Acrobat 7, 8, 9 で、メニューのアドバンスド／プリフライト ... からプリフライトダイアログを表示し、オプション／プリフライトプロファイルを取り込み ... を選択します。表示されるファイル選択ダイアログで、あらかじめ用意しておいた RGB ワークフロー用のプリフライトプロファイルを選択します。



2. プリフライトダイアログのリスト一覧に、追加したプロファイルが表示されます。これで完了です。



管理番号：100259609V00

本冊子はプログラムの改変により、断りなく変更される場合があります。
本冊子に登場するプログラム名、システム名などは一般に各メーカーの商標または登録商標です。

2004年 3月 15日 初版 (Ver2.20)	InDesign CS の PS 作成、Illustrator CS の EPS 作成方法を記述
2004年 3月 31日 第二版 (Ver2.20)	InDesign CS からの PDF/X-1a 作成を追加
2004年 6月 24日 第三版 (Ver2.21)	QuarkXPress 6、初期設定を追加
2004年 6月 28日 第四版 (Ver2.21 / Ver3.00)	Trueflow Ver3.00 対応
2004年 11月 11日 第五版 (Ver2.21 / Ver3.02)	PDF/X-1a 運用を追加
2005年 1月 21日 第6版 (Ver2.21 / Ver3.02)	PDF/X-1a 運用にオーバープリントと塗り足しを追加、 QuarkXPress 6.5、Acrobat 7に更新
2005年 7月 8日 第7版 (Ver2.21 / Ver3.03)	ドキュメントの構成変更、Adobe Creative Suite 2 対応、 カラーマネジメント、CS2 各種プリセット、特色指定を追加
2005年 10月 5日 第8版 (Ver2.21 / Ver3.03 / Ver3.10)	RGB ワークフロー、Windows XP 初期設定を追加
2006年 3月 29日 第9版 (Ver2.21 / Ver3.03 / Ver3.12)	RGB ワークフロー、オーバープリント、断ち落とし 改訂
2006年 11月 16日 第10版 (Ver2.21 / Ver3.03 / Ver3.12 / Ver4.01)	Acrobat 8 対応、RGB ワークフローと白のせを改定、OPM 追加
2007年 6月 20日 第11版 (Ver3.03 / Ver3.12 / Ver4.01 / Ver5.00)	Trueflow SE 対応、AdobeCreativeSuite 3 対応、OPM 改定
2008年 7月 20日 第12版 (Ver3.12 / Ver4.01 / Ver5.01 / Ver6.00)	QuarkXPress8、Acrobat9、バージョンニング運用対応
2008年 11月 26日 第13版 (Ver4.01 / Ver5.01 / Ver6.00)	Adobe Creative Suite 4 対応
2010年 5月 28日 第14版 (Ver5.01 / Ver6.01 / Ver7.10 以降)	Adobe Creative Suite 5 対応、PDF/X-4 関連記事拡充 Web

最新版は、大日本スクリーン製造のサイト http://www.screen.co.jp/ga_dtp/product/trueflow/trueflow_se/ から入手できます。
解説、補足、修正などの最新情報は「出力の手引き Web」 http://www.screen.co.jp/ga_dtp/dtp/ に掲載しています。
本文中の [Web](#) 書かれた部分をクリックすると、「出力の手引き Web」の関連ページにリンクします。
このドキュメントは「ヒラギノ UD 角ゴ」シリーズを主として使用し、InDesign CS5 を用いて作成しました。

大日本スクリーン製造株式会社
